

骨髓バンク 2009年1月 会報41号

会報発行：骨髓バンクを支援するいばらきの会 <http://ibaraki.marowjp.net/>

発行責任者：牛島英二 編集：小田倉孝夫・福岡究

<事務局> 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-1-1-913福岡方

TEL : 029-856-7881 / FAX : 020-4668-5485 / E-mail : bmt-ibaraki-owner@egroups.co.jp

新年のご挨拶

会長 牛島英二

会員の皆さん、新年おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年の骨髓バンクを振り返ってみましょう。

まず全国レベルでは、1月半ばに国が掲げたドナー登録目標数30万人を達成いたしました。当初目標とした患者さんの9割に適合するドナーが見つかることは達成されたものの、実際に移植ができたのは6割に満たないのが現状です。

今なお多くの患者さんが骨髓バンクに登録され、骨髓移植を待ち望みながら移植を受けられない患者さんがまだまだ多くいらっしゃることから、30万人の目標達成は一つの道しるべとして、これからも一人でも多くの県民の皆様にドナー登録していただけるよう努力して参る所存ですので、県ならびに血液センターにおかれましては、今後ともよろしくご指導・ご協力いただけますようお願い申し上げます。

また、12月初めには骨髓移植数が10,000例に達しました。骨髓提供していただいたドナーさんをはじめ、移植に関わった全ての関係者の皆さんの大変なご努力・ご尽力に敬意を表すると共に、心から感謝申し上げます。

次に茨城県では、12月末現在の登録者数が6,859人で、目標達成率は99.2%となり、順調に増加しています。ドナー登録会は年間37回が開催され663名の登録者を得ましたが、10月の骨髓バンク推進月間中では合計10回、190名の登録者を得て単月度では過去最高を記録し、年度ベースでの12月末現在の登録者数は581名となり、過去最高であった昨年度の546名を超えて新記録達成となりました。

いばらきの会では新しいメンバーとして、染谷さん、藤岡さん、浜中さんらが参加されました。当会モットーで、今後のご活躍を期待しております。また骨髓バンクから移植を受け元気になった佐藤ルカちゃんのお父さんである佐藤伸治さんが6月に骨髓バンクで骨髓提供され、めでたく当会6人目のドナー経験者となりました。佐藤さんから提供を受けた患者さんの一日も早いご回復を祈念いたします。

さらにうれしい出来事として、和田かず美さんが今年9月に移植10周年を迎えられました。先月に臨時定例会を兼ねて記念祝賀会をささやかに行いました。

私たち骨髓バンクボランティアにとり、移植により健康を回復された元患者さんの元気な笑顔が最高の喜びと活動の糧です。

今年もまた、県薬務課、各保健所、ならびに血液センターのご指導、ご協力により、一人でも多くの県民の皆さんにドナー登録していただけるよう、いばらきの会メンバー全員の方で「一人でも多く、一刻も早く患者さんの救命に寄与する」目標に向かって「気負わず、あせらず、できることから、楽しく」のモットーで活動して参りましょう。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

10月11日 鉾田総合運動公園献血並行登録会

ドナー登録者数 13名

献血者数 39名(受付53名)

登録会参加者

鉾田保健所 長洲様、吉森様

登録推進員 飛田様(水戸献血ルーム)

いばらきの会 和田さん、伊井陽子さん

財団地区普及広報委員 伊井(山崎代理)

朝からの雨でお祭り開催も危ぶまれましたが、なんとか小降り状態の中、実施されました。

そのため、献血申込もポツポツの状態が続き、午前中献血待ちに並ぶ列はありませんでした。

それでもなんとか、午前中6名の方にバンク登録していただきました。

雨も時折激しくなったりやんだりという状況で、非常にやりづらい天気でしたが、日赤さんの心配りで、テントの横幕を張っていただき、テント内への降り込みを防ぐことができ、非常に助かりました。

午後開始後は若干降りましたが、その後ほぼ雨もあがりませんが、なんと言っても今年のイベントは、昨年に比べ規模がとって小さくなり、そして雨の影響もあったとは思いますが、お客さんの出入りがほとんどなく、昨年のような活気はありませんでした。

そのため、新しいお客さんは望めず、ずっと会場にいる同じ方に「献血お願いします。」を繰り返していたように思います。これでは献血申込も増える訳ないなあと感じました。

結果としては13名の登録者でした。

来年は、規模が大きくなることを望みたいと思いつつ、帰路につきました。

本日参加されました皆様、雨の中、本当にお疲れ様でした。(伊井義人)

10月14日 利根町役場献血並行登録会

ドナー登録者数 17名(受付22名)

献血者数 47名(受付66名)

登録会参加者 竜ヶ崎保健所 坂場様

いばらきの会 福間さん、長尾さん

財団地区普及広報委員 伊井義人

利根町役場は利根川沿いに位置し、庁舎から見える風景は茨城県ではなく千葉県という、なんとなく不思議な雰囲気をももたせていました。(茨城県庁よりも千葉県庁の方が近いと言っていました。)

午前中の2時間は、コンスタントに献血申込があり、特に役場の職員やパートの方が多く見受けられました。そのため、年齢的にもバリバリの50代手前の方が多く、バンクにも協力的に登録していただきました。

午前の受付が14名でその内、登録できた方が11名という上々の滑り出しでしたが、午後になって雨も降り出し、献血者もパツパツと減り、もちろんバンク登録も伸びません。

午前午後をとおしても庁舎を訪れる方はあまりないようにも感じましたが、そんな中、結果として

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

17名の方に登録いただいたのは、役場の方々の意識の高さではないかと感じました。特に献血担当の健康福祉課の蜂谷さんも登録してくださり、他の職員にも「自分もやったよ」と言ってくださったのは、大きな後押しになりました。感謝感謝です。

参加された皆さま、本当にお疲れ様でした。

PS:自営業の方が、協力したいけど休みは取れない。(裁判員制度で当たったら強制的に休まされる。困った。)ということを書いてました。一日でも早く末梢血幹細胞移植が定着し、入院なしで提供できる日が来ることを望みます。(伊井義人)

10月14日 三菱化学鹿島事業所献血並行登録会

ドナー登録者数 10名(受付11名)

献血者数 53名(受付66名)

登録会参加者 潮来保健所 安澤様、児玉様
登録推進員 飛田様(水戸献血ルーム)
財団地区普及広報委員 牛島英二

同事業所では3回目の開催となりました。

今回の献血では事業所のご配慮で、献血希望者が集中して待ち時間が長くなることを避けるため、事前に献血希望者を時間帯毎に配分されたことが功を奏して、大変スムーズな献血受付となりました。

いつもの通り、献血希望者の方々にドナー登録をお勧めしましたが何人もの方が「登録していません」とお答えになり、とてもうれしく思いました。

午後からは天気予報通りに雨となりましたが、工場勤務と思われる方がカッパを着て業務用のバイクで会場までお越しになるのを何名も見かけました。

また、勤務終了後と思われる私服の方で「予約してませんが、献血できますか?」と会場にお越しになる方も何名か来られて、献血に対する社員の皆さんの意識の高さに敬服いたしました。

(牛島英二)

10月15日 筑西市協和総合センター献血並行登録会

ドナー登録者数 30名(受付32名)

献血者数 95名(受付105名)

登録会参加者 筑西保健所 波川様
いばらきの会 細谷みさ紀さん
地区普及広報委員 細谷栄一

長袖を着ていると汗ばむような秋晴れの中での登録会となりました。今回の登録会は協和ライオンズクラブ様のご協力による開催となりました。献血にいらっしゃる方々の殆どがライオンズクラブの関係者の方々の方でした。

ご高齢の方も多く登録できる年齢の方がどれだけいらっしゃるかという不安もありました。しかし、始まってみると若い方も多く、骨髄バンクの登録にも積極的に協力するように呼びかけていただき、今回のような結果となりました。協和ライオンズクラブの方々には本当に

気負わず、あせらず、できることから、楽しく!

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

感謝いたします。協和総合センターでの登録会は、丁度4年前に実績があります。前回は8名、今回は30名と大きく記録を伸ばすことが出来ました。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。（細谷栄一）

10月17日 ベイシア高萩モール店献血並行登録会

ドナー登録者数 9名
献血者数 53名(受付79名)
登録会参加者 日立保健所:菊池様、中井川様
登録推進員:得田様(日立ルーム)
説明員:井手さん、田崎さん
地区普及広報委員:牛島英二

会場はスーパーマーケット、ホームセンター、家電、ペットショップなどがある市内一の規模を誇る複合商業施設とのことで、当日は朝から快晴の好天に恵まれたこともあり、平日にもかかわらず開店直後から多くの来店者があり、献血会場にも大勢の方が献血に訪れました。いつもの通り献血希望者の方への登録声掛けを行いました。登録可能年齢超過の方も多く、また登録済みの方も何名かおられて、登録者数は1桁台に止まりました。この会場での献血は年間6回も実施されており、毎回の献血実績も高いとのことですのでまた来年度以降も再度開催したい場所と思いました。（牛島英二）

10月19日 みなと産業祭献血並行登録会

ドナー登録者数 19名(受付20名)
献血者数 58名(受付72名)
登録会参加者 ひたちなか保健所:佐藤様、上野様
登録推進員:得田様(日立ルーム)
説明員:長尾さん、和田さん、伊井陽子さん
地区普及広報委員:伊井義人

今日は、大変日射しと風の強い一日でした。バンクのテーブルは、日赤さんのテントの一部をお借りし、献血申込記入の机とバンク受付・説明がー列につながった配置で、非常に密接感のある、とても日赤さんの暖かさを感じた登録会でした。ありがとうございました。午前中、強風により一瞬テントが引きずられ、ヒヤリとした場面もありましたが、日赤さんの車をテントの前に移動させ、車のルーフとテントをロープでつなぎ、なんとか、飛ばされるのを防ぐ事ができました。今年は、昨年より少し後方での献血でしたが、出店のテントとの距離が空き、人々の流れが献血の方へは向かないような位置となりました。このため、献血のプラカードをお借りし、頭上に掲げて場内を練り歩き献血と骨髓バンクを訴えました。そして長尾さん、和田さんがチラシとティッシュを配り、呼びかけを行いました。中にはティッシュだけわしづかみにする人もいたようです。強風が吹く中、その効果あってか、午前中に8名、午後には11名、合計19名の登録がありました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

このみなと産業祭での登録会は、2年連続の開催でしたが、昨年の14名を上回ることができました。

参加された皆さま、日射しが強い中、本当にお疲れ様でした。(伊井義人)

10月25日 神栖市消費生活展献血並行登録会

ドナー登録者数 20名(受付23名)
献血者数 55名(受付81名)
登録会参加者 潮来保健所:床宿様、安澤様
説明員:伊井さん
地区普及広報委員:牛島英二

昨年は台風という荒天での開催でしたが、今年は終日曇天ながら雨が降ることはなく、会場周辺で開催された消費生活展、産業祭、文化祭などのイベントにたくさんの市民が訪れました。市民の方々は恒例のおもち、野菜、薩摩芋、生さんまなどの無料配布を良くご存知で、それぞれの配布時間には長蛇の列ができていました。献血受付・ドナー登録会場は消費生活展が開催された市民体育館の玄関ホールであったため、出入りする市民から目に付きやすく、献血バス前には常時順番待ちの列ができて献血者数も昨年実績を上回りました。登録者は午前中は5名程度でしたが、午後からは伊井さんの巧みなささやき勧誘作戦が功を奏して、結果として20名もの方々にご登録いただくことができました。(牛島英二)

10月26日 建設フェスタ献血並行登録会

ドナー登録者数 34名(受付35名)
献血者数 48名(受付67名)
登録会参加者 ひたちなか保健所:佐藤様、高藤様
登録推進員 得田様
説明員:長尾さん、和田さん、弓野さん
地区普及広報委員:伊井義人

建設フェスタは2年ぶりにひたちなか管内での開催となりました。会場は大変広く、場内を1周するだけでもかなりの距離を歩くことになるような広さで、沢山の人が来ているにもかかわらず、混雑感のない不思議な光景でした。

保健所の佐藤さん、高藤さん、それに長尾さん、和田さん、弓野さんが入れ替わり立ち替わり、積極的に場内を回ってチラシを配って下さいました。

午前中は献血者自体が大変少なく、午前受付の2時間で10数人しか献血申込されませんでした。申込記入中にバンク登録協力依頼の声掛けをすると、なんとなんと、ほとんどの方がOKでバンクの登録に回って下さいました。

午前の結果としては、あり得ない数字で、なんと、献血実施者11名に対しバンク登録12名と、献血者よりもバンク登録者の数が上回ってしまい、我々はもちろん、日赤の皆さんもビックリしていました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

午後になって献血者も増え、バスの前に順番待ちの椅子を並べる状態になりましたが、バンク登録の方も午前中の勢いそのままに献血者の増加とともに順調に増えていきました。

保健所からの粗品は30名分用意されていましたが、途中で足らなくなる事が予想されたため、佐藤係長が急遽保健所まで粗品補充に車を走らせたほどです。

結果として、これまたビックリの7割越えを果たし、34名の登録をいただきました。1名は残念ながらB型肝炎ということで問診でダメでしたが、チャンスの不適条件にはウイルス性肝炎と書いてありますが、B型・C型とははっきり書いてないため、本人は該当しないと思ったそうです。

今回も感じたことですが、やはり牛島会長伝授のささやき作戦はドナー登録増の最大の作戦だと思います。待ちの体制では、ここまでの数字は絶対に出ないでしょう。本当に充実した1日でした。

また、午後のイベントにチャリティオークションがあり、財団にお骨折りいただきゲットした読売巨人軍の主力選手12名の直筆サインボールを提供しました。

オークション開始前に、巨人軍がバンクを応援してくださっているので、ボールを提供していただいたことや骨髄バンクの簡単な説明と登録呼びかけ(もちろん献血も)をステージ上でやらせていただき、集まった方々へバンクのPRをすることができました。

サインボールは10回のオークションにそれぞれ1個(2回は2個セット)ずつ振り分け、開始されました。ボールは今回の目玉として扱っていただき、昨年までだと1回の落札額は3～4000円止まりがほとんどだそうですが、今回はいきなり1万円越えで落札され、安くても6～7000円ほど、最高額は2万円という高値のオークションになりました。

落札された皆さんに手渡し場でお聞きすると、やはりボール目当てでした。建設未来協議会の細谷会長やオークション担当の方からも、何度も何度もお礼を言われました。

この場をお借りしまして、ご協力いただきました巨人軍関係者の皆様に感謝するとともに、財団さんにも感謝感謝です。本当にありがとうございました。

来年もまたよろしくということでしたので、何か策を練らなければと思いつつ、帰路につきました。

(伊井義人)

10月27日 京三電機献血並行登録会

ドナー登録者数 27名(受付29名)

献血者数 32名(受付48名)

登録会参加者 古河保健所 鈴木様

地区普及広報委員 小田倉孝夫

古河保健所管内で本年2回目の登録会となりました。

登録会場となりました京三電機さんは古河市内でも大手の企業になり第1工場から第3工場(結城市にもあり)までありますが今回は第1工場での献血&登録会になりました。

事前に保健所担当者の国府田さんのほうでPR及びチャンスの設置などをして頂いていた事もありスムーズに登録会を実施できました。

京三電機のご担当者のお話では月曜日のせいか工場の生産のためか普段よりも出社されていた方も少なめだったようです。

また他の工場からの移動が不便なこともあり献血希望者48名と少なめでした。バンクの方は2名対応だったため献血希望者の方への声掛けをする余裕がありませんでしたが、血液センター

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

の宇津木さんと植村さんの献血希望者への積極的な声掛けをして頂いたお陰で午前中10名、午後17名の合計27名の方にドナー登録をしていただくことが出来ました。お二人には大変お世話になり感謝申し上げます。

本日のドナー登録では反省点がありました。第1点は献血とドナー登録希望者を献血バスに案内する際に問診ドクターへ誘導するところを献血バスへ誘導してしまい問診ドクターに注意されるまで気がつかずご不便を掛けてしまいました。第2点はドナー登録関係の書類の記入漏れをチェックしていたものの記入漏れがあり検体チェックにご不便をおかけしました。

今後このようなことがないように注意したいと思います。(小田倉孝夫)

10月29日 筑波大学献血並行登録会

ドナー登録者数 11名(受付16名)
献血者数 60名(受付98名)
登録会参加者 つくば保健所 片岡様
いばらきの会 福間明子さん
地区普及広報委員 福間 究

屋外での登録会としては最高の日和でしたが、残念ながら登録は多くありませんでした。原因は学生さんは授業が最優先のため、時間がありませんと断られてしまい、献血をするときも、どのくらい時間がかかりますか?とよく聞かれました。そのため、登録者のかなりの人が授業の終わった15:00～16:00の登録でした。また、せっかく県パンフやチラシを渡しても、それを読むより鞆から取り出した本を読まれてしまい、声かけのし難い登録会でした。(福間 究)

11月14日 かねやフェスタ店献血並行登録会

ドナー登録者数 23名(受付26名)
献血者数 72名(受付99名)
登録会参加者 常陸大宮保健所 山田様
登録推進員 得田様
いばらきの会 伊井陽子さん
地区普及広報委員 伊井義人

かねやフェスタ店での登録会は、献血バス2台、お昼休みなしという体制で実施いたしました。常陸太田ロータリークラブの方々が朝早くから集合され、テント設営や机、椅子の設置など、あっという間に終わらせてしまい、我が骨髓バンクの設営お手伝いまでして下さいました。9時半から開始ということでしたが、献血に来られる方々はほとんどご高齢の方々に、なかなか声掛けができない状態が続きました。

それでもお昼頃までに7名の方に登録いただき、午後になって献血者が増え始めた頃に、やっとバンク登録も波に乗ってきました。献血申込者の年齢構成としては約半数がご高齢の方ではないかという中で、結果として23名が登録して下さいたことは、大きな成果だと思えます。声を掛けただ中には、すでに登録されている方が3名ほどおられました。また、大変嬉しいことに、チャンスをネットで財団から取り寄せ、申込書を記入して来られた若い女性もいらっしゃいました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく!

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

彼女は登録会が実施されることはご存じなかったようで偶然登録会に出くわしたという感じでしたが、折角なので、質問にお答えする形で登録会での登録ということにさせていただきました。職場でも、周りの方に登録を勧めたり、脊髄ではないこともちゃんと説明して下さっているとのこと。話を聞いて大変嬉しく思い、本当に実りの多い1日となりました。参加された皆さん、大変お疲れ様でした。（伊井義人）

11月17日 前川製作所献血並行登録会

ドナー登録者数 7名(受付7名)
献血者数 50名(受付59名)
登録会参加者 竜ヶ崎保健所 坂場様
いばらきの会 山崎さん
地区普及広報委員 牛島英二(伊井代理)

この会場での登録会は初めての開催となりました。社員食堂の一角を献血と登録受付会場とし、昼休み時は一時撤収して午後は再度会場を設営しての受付となりました。献血者数も午前中は少なかったのですが、午後からは山谷がありながらも結果として50名の方に献血していただきました。ドナー登録の方も午前中は3名と低調で、午後からの献血者増加と共に登録者増も期待したのですが残念ながら二桁台には届きませんでした。この会場では例年4月と11月に献血を実施されているようで、若い方の比率も高いので次回以降に期待したいと思います。余談ですが昼休みは会場の食堂で社員の方と共に定食メニューの昼食をおいしくいただき、その後社内を散歩しましたが広大な敷地に様々な工場が配置され、さらにはフルサイズのラグビーグラウンドと野球グラウンド、そしてテニスコートが4面有り、社員福祉に会社として積極的に配慮されておられるのが印象的でした。（牛島英二）

11月18日 日本メクトロン南茨城工場献血並行登録会

ドナー登録者数 18名
献血者数 61名(受付85名)
登録会参加者 つくば保健所 片岡様
いばらきの会 福間明子さん
地区普及広報委員 福間 究

今回の登録会は日本メクトロン南茨城工場様からの要望で実現した珍しく、うれしい登録会でした。一般に工場等に入るときは受付で氏名などの記入をしますが、ここでは、どうぞとフリーパスでビックリしました。ドナー登録の人数は多いような、少ないような微妙な人数で、献血はしないが、バンク登録だけの人が4人いたのは要望で実現した登録会だからのようです。労働組合のPRが行き届けば、来年度も期待できる登録会になると思いますし、ドナー登録会の開催を要望される職場が増えることを期待しています。（福間 究）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

11月18日 イオンモール水戸内原店献血並行登録会

ドナー登録者数 21名
献血者数 35名(受付54名)
登録会参加者 水戸保健所 湯浅様
登録推進員 飛田様(水戸献血ルーム)
いばらきの会 福間さん、和田さん、山崎晃子さん、谷津夫妻
地区普及広報委員 山崎揚久

当初予定していた常磐大学での登録会から急遽変更して行いました。
イオンモール水戸内原は北関東最大規模のショッピングセンターでモール通路をお借りして実施いたしました。
今回は当会のメンバーでウィーン在住(IAEA査察官)の谷津ご夫妻が一時帰国のお忙しいなか参加され、パンフなどを配布して頂きました。
午前中は人通りもまばらで、登録される方がいるのか心配でしたが4名のドナー登録。午後の開始当初は午前中より人通りが無く、どうなることかと思いましたが徐々に献血など来場される方が増え、ご夫婦や親子で登録やネットを見て来場される方もいて一時は説明する机もいっぱいになり、受付されるすべての方が登録できまして結果は21名と予想を上回りました。
この場所は献血毎に登録会を実施しても良い場所です。
参加された皆様、大変お疲れ様でした。(山崎揚久)

12月16日 水戸医師会看護学校講演会報告

今年も看護学校へ

12月16日私は今年で4年目、4回目となる水戸医師会看護学校に講師として毎年お世話になっている山口先生に呼んで頂き講演をしてきました。
3年間一緒にペアを組んで仲良くやってきた最高のパートナーの湯本さんが長野へ帰ってしまった為、今年はどうなたかに、この素晴らしい機会を味わってもらいたくバトンタッチを去年の会報に、看護学校へ行った時の報告を書かせて頂いたのですが、結局移植経験者で予定が合う方が2人集まらず、今年も私が行かせてもらいました。
1人ではとてもじゃないけど一時間半もの長い時間話す事は難しいので、小田倉さんに助けを求めました!! そうしたら、福間さんが今年と一緒に講師をやってくれる事になりとても安心しました。
ありがとうございました(^-^)それと今までも少しの時間ではありましたが、骨髄バンクのPRもしてきた事を小田倉さんに話したところ、「じゃあ、オレが!」と言う事でバンクPRの担当で小田倉さんも一緒に講演してくれました。
今年の授業は、1・2時間目と朝早かったので学生の準備が整わず授業開始時間が20分程遅れた為に話す時間が足りず、最後にバンクPRを設けたんですが一生懸命に手をかけて作ってくれた小田倉さんのパワーポイントもゆっくりと紹介できず、あわただしく1時間半が過ぎていきました。
私は今年、前回の会報に載せて頂いた手記を半分にまとめ話しました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく!

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

毎年すごく緊張しますが毎年思う事は、看護師になりたいと言う学生が多くいてくれる、そして真剣に私達の話聞いてくれて中には涙をながしながら聞いてくれる心優しい方がいてくれる私達の気持ちを分かって一生懸命になってくれる看護師の卵の方々が、看護師になってくれる事が本当に嬉しいです。

今年も素晴らしい機会をどうもありがとうございました。(和田 かず美)

講演会に参加して

水戸市医師会看護専門学院での、いばらきの会会員による骨髄移植体験談報告は昨年までは湯本さんと和田さんが担当していましたが、湯本さんの転居に伴い今年は和田さんと私が骨髄移植の体験談を、小田倉さんが骨髄バンクの説明を行いました。

看護師さんの卵、約80人を前に、発病から今日までの状況を説明しました。抗がん剤治療のつらさ、ドナーがなかなか見つからなかったこと、骨髄移植前のあわただしさ、ドナーの方の骨髄が体内に入るときのうれしさ、食事が食べられなくなったこと、薬を飲むことのつらさ、移植に伴う副作用、看護師さんのテキパキした対応、食べ物の制限、普通に生活できるうれしさ、亡くなった人もいること、などなどです。

生徒の皆さんに骨髄移植という特殊な治療の体験談を説明することで、患者の気持ちなどを少しでも知っていただき、これから看護師になられる生徒の皆様にも少しでも役に立てば幸いです。後日、生徒さんの感想文をいただきました。学業に多忙な折に感想文まで作成していただき感謝しています。(福間 究)

12月18日 下妻市役所献血並行登録会

ドナー登録者数 10名(受付11名)
献血者数 84名(受付116名)
登録会参加者 常総保健所 鈴木様
いばらきの会 福間明子さん
地区普及広報委員 福間 究

好天の登録会ですばらしい方がいらっしゃいました。

午前中に献血をされた方が、午後、また来てドナー登録をしてくださいました。

一旦帰られたのは、ドナー登録をすることにご主人の了解を得るためだったそうです。

この方に、もし、ドナーの依頼が行ったら了承して下さるのではないかと感じました。(福間 究)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

ご案内

過日の新聞報道などでご存知の方もおられることかと思いますが多くの骨髄移植で採用されている骨髄採取キットが供給不足になる懸念があるとされています。これらの問題に関しまして「日本造血細胞移植学会」よりその対応に関してプレスリリースされましたので抜粋して掲載させていただきます。

骨髄採取キット(バクスター社)欠品のお知らせ並びにその対応について(抜粋)

第3報 2008.12.29

1. 骨髄移植推進財団では現在、2009年1月に115件が採取確定し、1月希望・採取未確定が13件、即ち潜在的には128件の採取を控えています。血縁の骨髄採取は月30~40件で推移するでしょうから、血縁、非血縁合わせて2009年1月には約150~160件の骨髄採取がおこなわれるであろうと予測され、2月以降も同様のペースで移植が行われるものと考えられます。
2. 現在バクスター社は185キット(輸入可能な70キットを含む)を、これから入手を希望される施設に供給可能です。これに加えて308キットが国内にあります。これらは既に各施設に納入済みのもので(以上バクスター社調べ)。仮に保有施設が当面使う予定のある数を差し引いてバクスター社に返品し同社が必要なところへ供給するなど施設間で融通しあって上記国内キット計493キットをフルに使った場合2009年1,2,3月分の採取は可能という計算になり、2009年4月からの採取に支障が出ることとなります。只、いったん施設に納入されたものを返品、再配布することは容易ではなく、185キットのみが今後のキット入手の対象になるものとし、月間採取の半数80例が、既に今在庫がない施設での採取であると仮定すると、3月からの採取に支障を来す施設が出てくることとなります。
3. 生産再開後のバクスター社のキットは工場並びに仕様の変更を伴うものであり、仮に同社が予定する4月に輸入したとしても、当局の検証・承認が必要です。他方、特に骨髄移植推進財団を介した非血縁ドナーからの骨髄採取日程はそれが数カ月以上先でも確定できるものは確定してゆく仕組みになっておりますので、多くの施設から(シアトル方式を用いることのできる施設又はその時未だ在庫を有する施設を除いて)2009年3又は4月以降の日程調整をする際、キットが無いから受けられないという答えが返ってくることになり、その現象は2009年年初から顕在化するであろうと思われれます。従って2009年年初には、遅くとも3月以降の数ヶ月間現在のキットの代替品を月150個以上確保しなければ、先ず非血縁者間骨髄採取・移植の日程調整にこの1月から大きな影響が出てくるものと考えられます(学会の調査及び財団のコーディネート部からの情報では既に支障が出始めていることが覗えます)。
4. 現キットの唯一の代替品とされるバイオアクセス社のボーンマロウコレクションシステムは、この需要を十分満たすだけの在庫・生産能力がある旨、学会並びに財団が正式に確認しました。本製品は1998年に米国FDAの認可を受けており、安全性に問題はないと思われれますが、学会では実際に使用している海外施設に詳細を問い合わせる作業をしております。
5. 即ち代替品を含めれば使用可能な採取キットは世界に十分在るのであって、今後はその代替品をいかに速やかに、且つスムーズに入手・日本で使用可能にするか、ということが緊急の課題であり、採取施設のご負担がなるべく少ないような仕組みを検討中です。只、当面2009年1,2,3月の骨髄採取にはバクスター社のキットが供給可能と思われれますので、遅滞なく骨髄採取の日程調整を進めて下さい。(以上プレスリリースより抜粋)

なお、今後の動向につきましては、骨髄移植推進財団及び日本造血細胞移植学会のホームページ等にて発表されますのでご確認ください。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

1月～3月の登録会予定

平成20年度も残すところわずかとなりましたが、今年度の登録会終盤戦が下記の内容で行われますので皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

1月29日(木) NOKクリューバ(担当地区普及広報委員 牛島)

2月 6日(金) 日本メクトロン鹿島工場(担当地区普及広報委員 牛島)

上記登録会に関するお問い合わせは事務局までお願いいたします。



骨髄バンク関係者の間でよく聞く意見・考えに「ドナー登録会で友人や職場の同僚などから誘われて、あまり深く考えずその場の雰囲気や勢いで登録してしまった登録者の骨髄提供への応諾率は低い」というものがある。

確かにそういうケースも否定できないが、骨髄バンクニュース32号のデータによればドナー側の初期段階でのコーディネート終了理由の上位三つは、都合つかず 治療中 連絡取れず、であって本人の不安や迷いによるものはわずか1%に過ぎない。

このデータを逆の視点で見れば、コーディネート開始率は28%であり野球で言えば打率2割8分となって、結構高い確率であるとも言える。

野球(骨髄バンク)で言えば打率(応諾率)を稼ぐことも必要だが、母数である打数(登録者数)を増やさなければ結果としての安打数(提供者数)は多くを望めないことは言うまでも無く、打数 = 試合出場数 = 登録会数、登録会場所数を多くすることが必要である。

私は献血回数約190回の献血オタクだが、仮に私が18歳の時に「社会のお役に立ちたい」との熱い思いで献血会場に行ったとする。その場では献血は行われず、意思と健康状態の確認のみで、献血時期は未定での予約受付がなされたとしよう。そして10年、20年が過ぎ多忙な毎日を送っていたある日突然に献血依頼が来たとする。しかし、仕事が忙しくとても一週間から十日の休みなどは取れず、またメタボ状態で健康悪化していることもあろうし、気が変わって協力する意志が無くなってしまっていることもあろう。さらには結婚や転勤などで住所変更して連絡を怠ってしまい、連絡が取れなくなることもあろう。

登録時に十分な理解と熱意の基に登録した人でも、20～55歳という人生で最も充実した多忙な日々を送る頃で、仕事や育児その他で都合がつかないケースや健康状態の悪化のケースなどで提供に至らない現状を打開するにはドナー休暇制度の導入、休業補償の有り方、健康管理(メタボ対策)、提供協力意志の維持対策などドナー候補者を取り巻く環境改善が重要となってくる。ドナー登録者数が30万人を突破しても骨髄移植を希望する患者さんの6割にしか移植が出来ていない現状を改善するためにも、ドナー登録会での登録者確保に向けて更なる努力を続けていこうと思う。(牛島英二)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

編集後記

皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。

今年も色々と工夫を凝らした会報作りがんばろうかと思う編集担当ですが、どうなることやら

さて、昨年は100年に一度と言われた経済不況に見舞われた日本ではありますが皆さまの周りの環境はいかがでしょう？

特に雇用情勢の悪化が心配されるところです。これらの経済不況が、骨髄バンク関係に影響しなければ良いと思うのですが……。

……雇用不況に巻き込まれたバンク登録者がどのくらいいるのか？

……この不況が提供環境に影響を与えることはないのか？……等等……

そんな心配をしているさなかに「骨髄採取キット」が欠品する可能性が出てきたとの報道がなされた。(詳細は、会報本文を参照願いたい)

簡単に経緯を解説すると供給元の会社が製造部門を売却し、新しく供給元となった会社が工場立ち上げに遅れが生じたり、安全承認までに時間を要するといった問題らしい。

実に初歩的なトラブルと言える。ましてや、関係企業のホームページなどを見てみるとこれらに対する「お詫び」らしき文面はリリースされていないようである。

国内関係機関はこれらの対応に苦慮しているにもかかわらず当事者には罪の意識はないようである。場合によっては2ヶ月間にもわたり移植が実施できない危機的状況に陥りかねない状況をどのように認識しているのだろうか？疑問は膨らむばかりである。

やはり「離合集散」を繰り返す外資系企業ならではのことなのであろうか？……

それにもまして驚いたのがこのキットがこの企業だけのものしか日本国内で承認されていない事である。

この企業の製品が相当に優れているのか？もしくは「万が一」に対しての危機意識が薄いのかのどちらかではないのか？

事の推移を見守りつつ、早急に解決されることを願うのみである。

ここで話題は大きく変わるが、昨年からはテレビで見ていると「医療関係」を題材とするドラマが増えているようである。小児救命を題材にしたもの、ドクターヘリを題材にしたものなど身近な話題でもあり興味深く拝見した。

また、ガン患者を主人公にしたドラマなども話題性とともに多くの視聴者に感動を与えたのではないだろうか？

これらの社会性をテーマにすると、とかく重い話題になってしまうのであろうが多くの視聴者が自分を見つめなおし、「家族との絆」「命の尊さ」を再び考える良い機会になってくれることを願うのは自分だけであらうか……(了)

(編集担当 小田倉孝夫)

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義：00110-3-127575

加入者名義：骨髄バンクを支援するいばらきの会

事務局からのお知らせ

心のもったご寄付をありがとうございました。(2008.10.1~12.31)

藤岡 純子様 3,000円

大屋 隆子様 3,000円

鈴木 弘子様 30,000円

色川久美子様 2,008円

ドナー登録は18歳から54歳までの健康な方ならどなたでも登録ができます。1人でも多くの皆様の御協力をお願いいたします。また、骨髄移植推進財団ホームページからも事前のお申し込みが可能となりました。ドナー登録についての詳しい説明もございますので是非ご覧ください。<http://www.jmdp.or.jp/index.html>

日本骨髄バンク骨髄提供希望者(ドナー)登録者数:329,247人(県内6,859人)

骨髄移植希望者(患者数):2,389人(海外1,023 県内34人)

バンクを通じての移植例数:10,069例(海外155県内移植数186例、県内採取数201例)
(2008年12月末現在)

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

財団フリーダイヤル 0120-445-445 または ドナーズネット <http://donorsnet.net> まで

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！